

広報



# まくべつ

わたしたちのまち

(昭和59年12月1日現在)

人口	21,594	(+39)
男	10,613	(+9)
女	10,981	(+30)
世帯数	6,525	(+8)

—人のうごき (11月中)—			
転入	95人	転出	73人
出生	23人	死亡	6人

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



うし  
丑年です。よろしく

明けましておめでとうございます。山田<sup>あつし</sup>孜さん(46歳・美川)は、町内でいちばん多い、112頭の乳牛を飼育する酪農家です。「モー、たくさんいますから、若い牛の名前は覚えられませんね。この仕事をやっていて特に良かったと思う時は、子牛が生まれた時です」

今年も皆さんにとって、良い年でありますようお願い申し上げます。

No.396

60年

1

# 新春 座談会

出席者  
 光(駒島・農業) 啓隆(相川・幕別農協)  
 村(明野・短大生) 辺清佳(明野・短大生)  
 高橋由佳(明野・短大生)  
 木村好(札内中央町・商業)  
 林 照男町長  
 山崎長一町議会議長  
 司会・清水雅企画財政課長



## 新しい年を迎えて

司会 皆さん明けましておめでとうございませう。  
 一同 明けましておめでとうございませう。  
 司会 最初に皆さんから、今年の抱負をお聞かせください。  
 町長 幕別に開拓のくわが下ろ

今年はずし年、町内で成人を迎える方は二百十九人います。その中から四人の方に町長、議長を囲んで、抱負や町づくりの方向などを話し合っていました。

されて、今年で八十九年になります。先人の大変な苦労の上に、幕別の繁栄があることを忘れてはなりません。幕別の発展は、前途悠悠たるものがあり、この町の立地条件を最大限に生かして、住民の皆さんと相談しながら町づくりを進めます。

議長 やはり気になるのは町の景気です。今年も農業の豊作を願

い、優良企業進出の条件整備、公共事業の拡大などに期待が強く、同時に住民が愛着を感じ、購買力を高める町づくりを図り、町全体の活性化を望みたいですね。

渡辺 昨年は就職して一年目でしたので、いろいろ戸惑いがありました。仕事に早く慣れ、一人前になれるよう努力したいです。

木村 自分の店を手伝っていましたが、昨年はつらく、せわしい毎日でした。今年は、スポーツや海外旅行などで、ゆとりのある生活をしたいですね。

中村 青年団の役員をやつて、人と人のつながりが大切だと感じました。このことを大事にしなが、責任を持って農業に励むつもりです。

高橋 三月に短期大学を卒業して社会人になりますが、ちょっと不安ですね。できれば保母として、自分が勉強したことを生かせる仕事をしたいです。

司会 ところで、町長、議長が成人の時はどんな様子でしたか。  
 町長 三十年前になりました。砂利道を



林 町長

自転車で、税金の徴収をしていましたよ。成人式は、カルタ大会な

どを楽しんだ記憶があります。  
 議長 でっち奉公をしていた昭和十五年に、徴兵検査を受け大人



山崎町議会議長

の仲間入りをしました。そのころは軍事色一色でした。

## まくべつが好きですか

司会 新成人の皆さんは、幕別で生まれ育ち、幕別で働いています。この町に住んで良かったと感じていますか。  
 中村 自分の住んでいる所を嫌いだと思つたことはありません。ただ農村部と市街地とのつながりが欠けていると思います。

渡辺 やはり、豊かな自然と人情味あふれる幕別で生活していきたいですね。  
 木村 子供のころの楽しい思い出や友達もたくさんいますし、愛着があり、この町が好きです。

高橋 私の所は、市街地から少し離れていますから、友達がなかなか遊びに来てくれませんでしたので、なんでこんな町に住んでいるのかなと思つたこともありました。(笑)

司会 四人のお話を聞いて、町政を推進する町長、議長の感想は

いかがですか。  
 議長 物の見方がしっかりしていて、意志を率直に述べることに感心しました。町に愛着の強いことを知りホッと、それだけに町づくりの責任を痛感します。

町長 四人から、ふれあいと思

いやりの豊かな町であると聞いて、うれしく思います。町づくりには、温かい思いやりが大切ですし、このことが基本になると考えます。皆さんも、職業、地域を超えて、大きな広場でふれあうことを大事にしてほしいですね。

## 理想の結婚相手は

司会 これからの生活設計や結

# 町の豊かな



婚などについて、どのように考えているでしょうか。

**高橋** 結婚はあこがれもありまし、人並みに二十二〜三歳で結婚したい。(笑)自分たちの家もほしい。熱中するやさしい男性がいいですね。(笑)

**木村** 二十七歳ぐらいまではと思います。いのししのような人が好きです。家庭でのんびりとした生活をしたいですね。

**中村** しっかりした考えはないんですが、二人で力を合わせて農



中村 啓光さん

業をやってくれる、素直な女性がいいです。

**渡辺** 今は結婚について考えていませんね。こういう質問はテレビからパスですね。(笑)

**司会** よく「今の若い者は…」という言葉を耳にしますが、町長、議長は、今の青年たちをどのように見られ、感じているでしょうか。

**町長** 人間は、それぞれ育った環境や時代などによって、価値感が変わりますから、特別にどうというふうには感じていません。ただ、物の見方が自己中心のように感じます。

**議長** 年配の方から言葉遣いと、あいさつ等、礼儀の欠けているこ

とを聞きます。老若の差だと思えますが、礼儀は理屈抜きで大切なことです。若い人も意識的に、おろそかにしてはいけません。機会があれば話し合ってみてください。

### 町づくり若い力を

**司会** 日常生活の中で、今、町に期待すること、足りないことなど、感じておられると思います。

**中村** 僕たちも努力しますが、冷害に強い農業経営の確立が必要ですので、それらの条件整備を積極的に進めてほしいですね。

**木村** 札内地区にも体育館の建設を希望します。

**渡辺** 幕別が自慢できる、特産品の開発に力を入れてください。また、観光についても遅れていると思います。

**高橋** 保育所の実習で感じたことですが、障害児保育の受け入れと保育について、もっと考えてほしいと思います。老人のゲートボ



高橋 由佳さん

ールが盛んになっていますが、屋内ゲートボール場がないようですね。

**司会** 四人から貴重な意見をいただきました。これらの回答を含め、これからの町づくりには、若

い力が必要だと思えます。青年にどんなことを期待しますか。

**町長** 一つ一つ大事なことがかりです。現に取り組んでいるもの、これからのものもあります。産業、生活環境、教育、福祉とパランスの取れた町づくりを進めていくようにしたいです。

**ゲートボール場、体育施設、特産品など、たかさんの要望がありますが、財政的な問題もあり、どれを優先して進めるか、事業の選択に頭を痛めます。**

これからは、事業の選択などに若い人たちの自由な発想が、大きな役割と影響を持つてくると思いますし、必要だと感じています。積極的に町政へ反映させたいと考えています。また、若い人たちにはこれから先端技術を駆使する能力が要求されてくると思います。

**議長** 町づくりは、町理事者、議会、住民が一体となって努力することが基本です。

二十一世紀に入ると、ニューメディアやハイテクノロジー等、科学万能の時代となり、農業、産業、生活の分野まで大きく変革があると思います。これに即応する若い人の頭脳とエネルギーが必要となつてきます。大いに期待します。

### 親しまれる広報紙に

**司会** 町の動きなどを紹介する「広報まくべつ」、議会の内容を知

らせる「議会だより」を発行しています。皆さんは読まれていますか。

**中村** 広報まくべつについては、自分の周りだとか、自分が関心のあることは集中して読みます。議会だよりは、自分とかけ離れた世界のことに感じていません。

**渡辺** 広報紙は、中村君と同じ意見です。議会だよりを真剣に読



渡辺 清隆さん

んだことはないですね。選挙権を与えられますので、これからは読もうと思います。

**高橋** 学生ですと、町の動きなどは、広報紙などでしか分からないことが多いですから読んでいます。紙面が硬い気がしますので、もう少し工夫をしたら、若い読者も増えると思いますね。議会だよりは難しそうです。

**木村** 広報まくべつは、毎度読んでいます。隣り近所の人が登場



木村 好さん

していると、一生懸命見ますよ。議会だよりは、いつもパスです。

**司会** 親しまれ、読まれる広報

# 温かい思い

づくりの努力をどうしていますか。

**町長** 広報は、行政と住民を結び掛け橋ですから、見ていただくための紙面づくりが重要です。そのため、「住民参加の広報」を基本方針に、多くの住民の紙面への登場、取材による住民の生の声を載せるなどに努力しています。

**議長** 今、聞くと議会だよりは評判が悪いですね。ですが、茶の間の議会傍聴として議員活動を知るためにも大切なものなのです。また、大変な苦勞をして発行しているのに、皆さんも今年から選挙権が与えられますから、嫌わずに読んでください。

**司会** 今日は、貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

われら...



# うし年に寄せて

皆さん、新年明けましておめでとうございます。町では、今年も引き続き、皆さんとともに豊かな町づくりに取り組んでまいります。  
さて、今年のエト・うし年生まれの人たちに、'85に寄せた抱負をお聞きしました。

## 明治34年生まれ



山崎ミサコさん  
(途別・農業)

### 家族みんなの健康がいちばん

生まれてこのかた、ずっと途別に住んでいます。今振り返ってみても、一生懸命に畑仕事をしたことばかりです。無理をしたせいか、足が不自由になってしまっ、今はひ孫と遊んだり、茶わんを洗ったりと、家の中でのんびり暮らしています。  
体を考えて昨年からは、老人クラブの旅行へ行くのもやめたんですが、月二回の老人福祉センターへ行くのは楽しみにしています。  
今年も家族みんなが健康であることが、いちばんの願いです。毎日、仏さんにお参りできることは幸せなことです。

## まだまだ仕事を続けます

いつの間にか七十二歳にもなったから、ひどいもんだね。便利屋の仕事は、昭和二十七年から始めたんだが、最初は、御用かごを担いでやっていた時もあったんですよ。好きな仕事だから、ここまでやってこられたのでしょう。  
趣味は、二振り持っている日本刀を手入れすることくらいです。この刀は東京に送って鑑定してもらったら、特別貴重刀の折り紙をつけられました。

## 大正2年生まれ



長屋春木さん  
(宝町・急便運送)

妻が留守番をしてくれていて、母も九十五歳で健在なので、今年も元気に仕事を続けていきたいですね。

## 大正14年生まれ



長崎ユキ子さん  
(弘和・農業)

### 今年も豊作であってほしい

昨年の春までは、畑に出て働いていたんですが、一時期病気をしてから、専ら孫の子守りをしています。先日、二人目の内孫が生まれたので、今年孫のめんどうを見るのに忙しくなりそうです。外孫も五人いるので、泊まりに行ったり、運動会やお遊戯会を見に行くのが楽しみです。  
畑のほうは昨年、平年作以上で良かったので、今年も昨年同様、豊作になることを願っています。  
今年はずし年なので、牛のようにのんびりと粘り強くいきたいですし、家族みんなが健康で良い年であってほしい。

大正14年



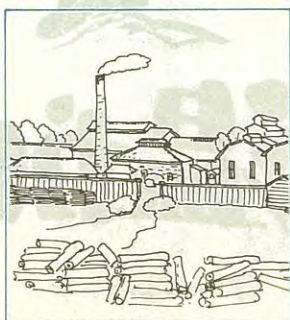
2.168戸

1.1913人

男:6,098人  
女:5,815人

第2回国勢調査が行われる

大正2年



新田製波工場ができる

明治34年



猿別市街に幕別郵便局が開設



### どこかへ 旅行に行きたい

以前は銀行に勤めていたが、四十九年に今の会社に入って、もう十年になりました。砂利販売が主ですが、昨年は公共事業の抑制などで厳しい年でした。

スポーツはゴルフをしています。月に七回くらいは行きます。月に七回くらいは行きます。月になかなかうまくありませんね。旅行が好きで、会社で暇になる冬場には、よく出かけます。やはり、寒い時期は暖かい所へ行きたいです。から、東南アジア諸国などへは、何回か旅行しています。今年も厳しい年になると思いますが、暗くならないよう努力したいと思います。

### 昭和12年生まれ



坂本 稔さん  
(札幌市・会社役員)

### 昭和24年生まれ



宮本 祥子さん  
(本町・主婦)

### 飛躍の年に したいです

日中は家業に追われていますが、自分の時間が持てるのは、夜の何時間かで、本を読んだりしています。

歌うことが好きなので、帯広にある合唱団へ入って、週二回通っています。以前は幕別の合唱団に入っていたのですが、今はなくなったので残念ですね。

仕事の関係で、家族で旅行する機会はあまりないのですが、スキーへはよく出かけるんです。子供が大きくなってきたので、自立心を養わせるよう心掛けたいですね。自分の世界をさらに切り開いて、飛躍の年にしたいです。

### 仕事で早く 一人前に

昨年四月、大学を卒業して、帯広の銀行に就職しました。いろいろ大変なことも多かったです。たたくさんの人となりが好きだったので、仕事は楽しいです。

ふだんは仕事が忙しいから、遊べるのは日曜日くらいで、ゴルフへ行ったり、友だちと海へ出かけたりしました。今年、もっとゴルフがうまくなりたいですね。

やはり仕事が優先なので、素直さを大切に、先輩を見習いながら、早く一人前になるようがんばりたい。それと、社会人になったので、町のことも関心を持ちたいです。

### 昭和36年生まれ



小幡 勝宏さん  
(札幌中央町・会社員)

### 昭和48年生まれ



松岡 淑恵さん  
(糠内小学校5年生)

### 将来は漫画家 になりたい

去年の思い出は、学校の水泳教室で温水プールへ行ったことと、陸別に転校した友達の家へ泊まったことです。

スポーツは、水泳とスケートが好きなんですが、ふだんやさしいお父さんも、スケートのときだけは厳しくなります。家の手伝いは、牛の乳をふくことと、米をといだりすることです。

もらったお年玉は、大きくなったら困るので、ぜんぶ貯金します。私は漫画が好きなので、できれば大人になったら漫画家になりたいです。今年には六年生になりますので、がんばります。

### 昭和48年



新田氏  
▼  
▲ 笹島氏  
笹島喜八郎氏が名誉町民  
新田愛祐氏が特別名誉町民に

### 昭和36年



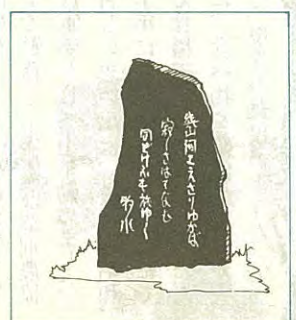
「幕」は末広がり伸びゆく幕別を、  
「別」は町民の和を表しています  
町章が制定される

### 昭和24年



白人、軍岡地区に電灯がつく  
ちろっと いきよか

### 昭和12年



黒田温泉地内に牧水碑建立  
(現在は依田公園内に移設)



# まちの ニュース



## ▶50メートル級ジャンプ台完成

札内スキー少年団(太田政宏団長・団員三十五人)の練習場になっていたジャンプ台が、五十メートル級に改造されました。スタート台は、父兄が電柱を利用して完成させました。



## ▲宮崎さんが佳作入選

第4回わたぼうし文学賞(財団法人・たんぼぼの家が創設)に宮崎茂さん(札内青葉町)の「私の女神さま」が佳作入選しました。宮崎さんは元中学校教諭で5年前に失明。「妻や2人の娘に励まれて生きてきたことへの感謝の気持ちをメルヘン的にまとめてみた」ということです。

## ▶町営スキー場にリフト新設

スキーシーズンを迎え、12月21日、町営明野ヶ丘スキー場に240本のリフトが設置されました。年々利用者も増え、1月6日からは、北海道スキー連盟認定のスキー学校が開校、12日にはスキー場開きが予定されています。



## ▲公区10周年祝う

創立十周年を迎えた札内若草町(佐賀信義公区長)では、近隣センター落成記念を兼ねた式典と祝賀会を十一月二十三日、札内福祉センターで行いました。出席者は創立当時の思い出を懐かしそうに語り合っていました。



木藤 五市さん (87歳)  
軍岡19

# 幕別風土記 十八

終戦の年、昭和二十年は大凶作になり、食糧を確保するのに大変苦労し、現在の難民のようでしたな。

(スレート)に石筆を使って文字の練習などをしたんですよ。同級生としては、軍岡の小笠原ナヨさんぐらいしか生きていないですわ。

十一歳の時に止若の雑貨屋に奉公に入り、数年後にその家で初めて電灯を見ました。そこで七年間勤めたあと、大正五年に新田ベニヤへ入社しました。兵役は、大正六年に甲種合格で入隊し、旭川に二カ月いて、その後、満州やシベリア方面へ出征し、大正十年七月に凱旋除隊をしました。

結婚したのは大正十年十月で、住居は旧役場の東側でした。四男四女をもうけましたが、そのうち二人の女の子を三歳で亡くしました。

除隊後、丸通日本通運で定年まで勤務し、定年後は幕別農協に倉庫係として十年勤めました。苦しい思い出は、終戦の昭和二十年に大凶作になり、ただでさえ食糧不足の時代であっただけに、食べ物を確保するのが大変で、現在の難民のようだった。

父親・辰蔵は徳島県三好郡三庄村の出身で、妻・ツネと三人の子供を連れて、明治二十八年、北海道開拓のためにやってきました。大津に着いてから、唎別(今の相川)の十勝川沿いに入植し、私は明治三十年三月二十五日に生まれました。

唎別は水害がひどいので、翌年に武山市街(今の明野)に移りました。土地は五町歩ぐらいあったが、半分はやちで、開墾には大変苦労したそう。耕作物は、豆、麦、いなぎなどでありました。家は掘り立てのよしぶきで、冬は大変寒かった。明け方は、とうしんなどのあんどんを使っていました。

学校は、明治三十六年に唎別尋常小学校に入学し、四年間学んで卒業しました。当時は石板

学校は、明治三十六年に唎別尋常小学校に入学し、四年間学んで卒業しました。当時は石板

# みんなの



三年前に僕の父が、交通事故で大けがをしました。手術でたくさん血液が必要になり、職場の同僚、友人から献血を受け、一命を取り留めました。

## 肌で感じた献血の必要性

三年前に僕の父が、交通事故で大けがをしました。手術でたくさん血液が必要になり、職場の同僚、友人から献血を受け、一命を取り留めました。この時から献血の大切さを肌で感じ、機会あるごとに献血をしています。このような体験を持っているのは、僕だけではないと思います。献血の必要性などについて、広報まぐべつに掲載してください。

■お答えします

(大学生)

◆◆ (投書)  
町に対するご意見や質問などがありましたら、お寄せください。出来事や体験などでも結構です。

投書には住所・氏名をお忘れなく。匿名ですと返答をお伝えするに困ります。広報紙に掲載するときには、匿名希望とお書き添えいただけますし、秘密は守ります。

□あて先…… 本町130番地 総務部企画財政課広報広聴係



献血の輪をさらに広げようとして、高良和雄さんが一日所長を務めるPR

## 健康管理にも役立つ献血

いつも献血にご協力いただき、ありがとうございます。

このところの交通事故の多発や輸血を必要とする疾病の増加は、ますます多量の良質な血液を必要としています。血液は、科学の進歩した現在でも、人工的につくることはできないのです。また、血液を長期保存することも、い

まだ実用化の域に達していないのです。このため、どうしても健康な人々の献血がなければ、輸血を必要とする人の生命を救うことはできません。献血は、いつでも、だれでも、安心して輸血が受けられるように、社会の一員としての人間愛から、健康な血液を自主的に提供していただくことです。

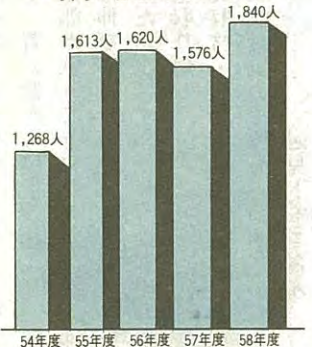
釧路赤十字血液センター帯広出張所では、移動採血車「ひまわり号」が各市町村を巡回して、献血にご協力いただいております。幕別町には年十回ほど来町しますが、日程などは、おしらせ広報で周知を図っております。五十八年度の町内の献血者数は千八百四十人で、四十年からの延べ献血者数は一万八千四百五十六人になります。

献血は、十六歳以上六十五歳未満の健康な人で、体重四十五キログラム(女性は四十キログラム)以上の人ならだれでもできます。一回の献血量は二百ccで、牛乳瓶約一本分です。献血後は二〜三時間で血流量が元に戻ります。献血された血液は、輸血用血液としての検査のほか、タンパク、コ

### ●58年度の管内の採血量と供給量



### ●町内の献血者数の推移



レストロールなど六つの項目の検査を行っていますので、自分の健康状態が分かり、病気の早期発見にも役立ちます。いただいた貴重な血液は、赤血球、白血球、血小板などの成分ごとに分けられ、患者さんが必要としている成分ごとに使われます。つまり、ある人には赤血球、他の人には血小板だけという具合に、あなたの二百ccが二〜三人の患者さんの体に通うのです。なお、輸血を受けて血液代金を医療機関に支払った場合、日本赤十字社では、本人等の申請に基づき、その自己負担分を返しております。また、赤十字社では、献血に協力いただいた方に表彰を行っています。五十八年度において町内では、有功章金色(五十回以上)の献血者)六人、銀色(三十回以上)二十二人が受章しました。これから厳寒期に向かい、供給不足が予想されます。献血の趣旨をご理解いただき、よりいっそうのご協力をお願いいたします。

(総務部町民課保健予防係)

## 新町民登場



あみだ編田 りょうこ 亮子さん (32歳) 札内あかしや町43

昨年六月、結婚のため苫小牧から転入してきました。苫小牧では、病院で薬剤師をして二年ほど住んでいて、その以前にも高校時代に住んでいたことがあります。

向こうは、製紙など工業の盛んな街ですが、気候はこちらほど良くなかったですね。

幕別は静かで環境はいいですし、食べ物のおいしい所です。今住んでいる道管住宅は広いですが、住み心地はいいのですが、少しバスの停留所が遠いので、出かけるのはおっくうですね。

幕別へ来て半年ほどなので、町のことはあまり分かりませんが、五月には子供も生まれる予定です。子供がいればいろいろと出歩いたり、交流を深める機会も多くなることと思います。

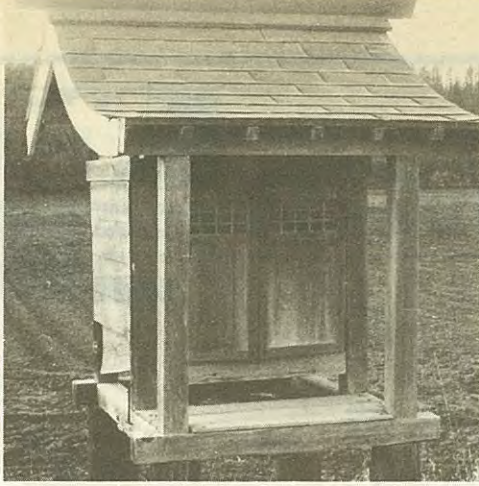
日中は、家で本を読んでいることが多いですよ。

# 美川のうたげの宿

第57回  
幕別  
路傍の神  
開拓と信仰  
美川

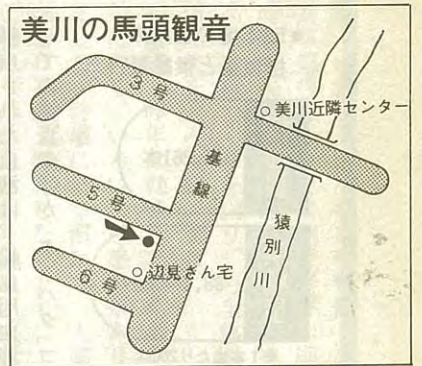
うとうとと眠り、ハッと目覚めた作造は、目をこすりながら柱時計を見ると、なんと五時を過ぎていた。慌てて身仕度をし、馬小屋へ走った。栗毛は、作造の気持ちを知っているかのように、頭や尾をしきりに動かしていた。外に引き出すと、大きな栗毛の鼻から勢いよく白い息が吐き出され、見る見るうちにひげまでが白くなってしまった。三月半ばの今朝は、昨日より気温が下がり、零下十度以下のような。栗毛にそりをつなぎ、その上に大きな木箱を乗せて、座布団、毛布、湯たんぽを積み込むと、箱馬そりのでき上がりだ。

調に走った。二歳馬の栗毛は、休まずに止若(幕別)へ向って走ったが、南勢の高山商店の手前まで来たところで、とうとう作造が、こらえ切れずに馬そりを止めた。道路わきの小がしわの根っこへ向け用を足した作造は、ブルンとひとつ大きな身震いをして、馬そりに乗ろうとしたが考え直し、馬にむちを揚げ馬そりを追いかけて走った。額がうつすらと汗ばんできたので、再び馬そりに飛び乗った。コボレ坂を過ぎるころ、辺りはすっかり明るくなっていった。金剛寺では、住職が身仕度を待っていた。八時過ぎであった。体を温め、栗毛に飼葉と水を与え、再び美川への雪道を走った。



昭和十三年に建立した  
第三、四農事組合の馬頭観音

今年の宿となった辺見三治の家へ着いた。まきストーブにあたり、かけそばをすすり、熱い茶を飲んでみると、外が騒しくなった。馬頭さんの前には、地元部落の人、坂の上部落の人、それに今年も博労である山田儀太郎の姿が見えた。およそ三十分ほどで読経とお参りは終わった。作造は同じ部落の青年と一緒に、宴会の会場でもあり宿になっている、辺見さんの家へ急いだ。早速、会場づくりに取りかか



った。前日からかみさんたちが腕によりをかけて作った、豆腐、とりに肉、野菜の鍋物、大津からかますで買ってきた、シシヤモの干したものの、儀太郎が手土産に持ってきたキンキ、それに飲み物、小笠原(でん)粉工場の澱粉を原料にして造ったどぶろくなどを並べた。子供たちには、澱粉館やビートで味付けした汁粉などを配ることにした。「この間のお産の時、夜遅くまですまなかったなあ」「いやあ、たいしたことはないよ、お互いさまだべさ。それにしてもあんな逆子で、よく助かったもんだなあ。足が見えてから、軽く二時間はかかったからなあ」「もし親子ともいかれたらあ、今年の春耕はどうなったことかと、ひやひやしたよ」「これも馬頭さんのおかげだあ、ナンマイダブツ、ナンマイ……」そのうちに酔いが回ったのか、ろれつの回らない人、くどくどと同じことを言う人もいた。台所を行ったり来たりしていたかみさんた

ちも、一段落して花が咲き出した。「ええい、やかましい。馬頭祭りなんかやめろ。やめてしまえ」と、突然茂作が叫び出した。何が起ったのかと、みんながきつねにつままれた様な顔をしていると、「何、とぼけた顔してるんだ。越中、越中と人をばかにするな。秋田がなんだ。秋田なんか東北でも田舎の田舎でないか。お前らに観音講の金なんか貸さんぞ」作造は、茂作おやじの訳の分からん、だはんこきが始まったと思つた。にらまれた坂の上の人たちは、今にも逃げ出しそうなかっとうであった。その時、馬小屋から上がってきた儀太郎は、いち早く部室の雰囲気を感じ取り、茂作をなだめにかかった。「茂作さんよ、金貸さんなんてそんなこと言ったら、坂の上の人もこの人も困るべさ。馬頭さんの無尽は、急病人が出たときなんかにように、困ったときはお互いに助け合ってきたもんだよなあ、茂作さん」ふだんから世話好きな茂作は、その言葉でようやくおとなしくなった。若い衆から拍手が起り、儀太郎が歌うことになった。儀太郎は伸びのある良い声で、追分を歌った。座はすっかり、にぎやかさを取り戻した。

取材協力 辺見 徳明さん  
辺見トモエさん

「寄付ありがとうございます」

- 町社会福祉協議会へ……
- ▽産業まつり実行委員会代表から一万四千八百八円
- ▽山崎武雄さん(途別)から三万円
- ▽幕別芸能会から十六万円
- ▽杉田愛子さん(相川)から五万円
- 老人クラブへ……
- ▽札内鉄南老人クラブへ猪股タカさん(札内あかしや町)から一万円
- ▽松島繁樹さん(同)から三万円
- その他……
- ▽高橋ラタイさん(豊岡)から町遺族会へ三万円

拓銀幕別特別出張所から町へ  
グラウンドゴルフ用具などを寄贈



町長へ目録を手渡す池田監査役

拓銀幕別特別出張所(木下紀捷所長)の新店舗を記念して、同行から町へ、グラウンドゴルフ用具十七セットと旧店舗で使用したロッカー、応接セット、キャビネットなど(五十万円相当)多数の物品の寄贈がありました。